

タクシー

フォト劇場 (26)

写真が生まれるものがたり

角^{かど}一つ手前で降りてタクシーの尾灯見送る 早く
帰らな
能勢玉枝

駅前などには客待ちをしているタクシーが止まっている。そして街中を流すのも。あの移動車は乗客と共にそれぞれの大事小事を運んでくれている。陸路が続く限りどこへでも行けて、降りる場所は乗客しだいである。

タクシーにたましひ先に乗りこみて肉体のそりと
つづきていたり
柴田佳美

タクシーにスマートに乗るのが苦手だ。目的地を思い、気持ちは先へ先へ進んでいる。車体におでこをぶつけてしまったり、足元がなめらかに動かなかつたりする。座ってようやく肉体にたましいが納まる気がする。



写真・木畑紀子

車にて記紀の世界を涉りゆき次は一言主神社へと
向かふ
清水芳洞

歴史が好きである。退職後『万葉集』を繙き、古代史に学び、木簡学へ寄りつつ、美しき土地の大和を旅している。時に万葉サークルの仲間と、また教え子と。齢八十、歴史とは何か、を律儀全いに問答している。

分限者のごたると言ふ母笑ひつつ乗せてやりたり
「平和タクシー」
岡田万樹

戦争で夫を亡くし、苦労ばかりの母の一生。老いて病み、通院の日が多くなった。もったいないからバスで行くと言うのをタクシーに乗せてやると、母はいつも言った。「あーあ、今日分限者のごたつた」と。